

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071602728		
法人名	有限会社 ケイテック		
事業所名	グループホーム「仲間館・絆」		
所在地 (電話番号)	福岡県久留米市城島町内野322番地1 (電話)0942-51-5552		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年7月31日	評価確定日	平成21年10月7日

【情報提供票より】(平成21年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年2月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 9 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	11.8 人

(2) 建物概要

建物構造	耐火鉄骨 造り		
	2階建ての 1階 ~ 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	水・光熱費(3000円)	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要 (7月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	8 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	5 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	58 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	寺崎医院・藤吉内科・毛利歯科・小野眼科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

古くからの銘酒の産地として酒造業が盛んであった城島町には、所々にその風景(酒蔵)があり、グループホーム「仲間館・絆」の白壁の塀に囲まれた外観も、それをイメージして建てられている。玄関には「お茶でもいかがですか。どうか、気軽にお立寄り下さい。」という看板を掲げ、地域に開かれたホームとなるよう取り組んでおり、「水曜会」には地域の高齢者が週1回来訪し、機能訓練やレクリエーションを楽しむ姿がある。昨年は沖縄に、今年は宮崎・鹿児島への2泊3日の旅行を実施しており、殆どの入居者が参加している。旅行中、全介助の必要な方とともに温泉に入り、大変喜ばれている。現在、地域への貢献として単身高齢者の安全確認等への取り組みを検討しており、行政への働きかけを行なっている。今後様々な関係者との協働により、地域における福祉の拠点としての役割りを担っていくことが期待されるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	介護計画作成にあたり担当者会議を確実にし、関係者の意見が反映されたものとなるよう取り組んでいる。災害対策として防災管理者を配置し、マニュアルに沿った定期的な防災訓練が実施されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価作成には職員全員で取り組み、管理者がまとめている。また新しくケアマネージャーが採用するため、サービスの向上につなげていきたい。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議では、入居者の状況報告や運営について会議を進行し、意見交換や助言を得ているが、メンバーの出席状況にも苦慮しており、定期開催には至っていない。地域との交流・連携を更に深めていくためにも、また評価と一体的に活かしていくためにも、今後の工夫や働きかけに期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	苦情箱を設置している。日頃から家族が意見を言いやすい関係づくりを大切にしており、直接言ってもらうことも多い。意見や苦情については真摯に受け止め、入居者の生活の向上となるように対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会に加入しており、草刈りや缶拾い等の地域活動に参加し、また地域行事(祭り・相撲大会・餅つき大会等)にも積極的に参加・協賛している。ホームでの行事にも地域住民の参加があり、少しずつ交流の輪が広がっている。玄関には「お茶でもいかがですか。どうか気軽にお立寄り下さい。」という看板があり、地域に開かれたホームとしての取り組みがある。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	「心こそ大切なれ、地域の一員として助けられたり、助けたり の輪を広めよう」という、地域密着型サービスとしての役割りを明確に表した独自の理念を掲げている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	管理者により毛筆で書かれた理念が掲示してある。職員が常に意識して理念の実践に取り組めるよう、ミーティングや会議の際には確認を行なっている。理念に共感して入職を決意した職員もいる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	自治会に加入しており、草刈りや缶拾い等の地域活動に参加し、また地域行事(祭り・相撲大会・餅つき大会等)にも積極的に参加・協賛している。ホームでの行事にも地域住民の参加があり、少しずつ交流の輪が広がっている。玄関には「お茶でもいかがですか。どうか気軽にお立寄り下さい」という看板があり、地域に開かれたホームとしての取り組みがある。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	外部評価の資料を職員全員に配布し、スタッフ会議等にて検討している。日々のケアの再確認として、また新たな気づきの機会として評価を活かし、サービスの質の向上に活かしていこうとする姿勢が伝わるが、一部の職員には評価の意義の理解には至っていない。		前回評価同様に、全職員が評価の意義や目的を理解していく必要があり、そのためにも運営推進会議を活用する等、今後の多面的なアプローチに期待したい。
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、入居者の状況報告や運営について会議を進行し、意見交換や助言を得ているが、メンバーの出席状況にも苦慮しており、定期開催には至っていない。		運営推進会議は、多様な立場の人々との意見交換や助言をサービスの向上に活かしていく上で貴重な機会であり、また地域との様々な場面での協力を得るためにも、参加メンバーの多様化や、日時・内容の工夫など、定期開催に向けての取り組みに期待したい。
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム「仲間館・絆」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	市町村担当者へは運営や支援について、適宜助言を受けている。グループホーム連絡協議会等においても交流を図り、サービスの向上に取り組んでいる。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、毎月の勉強会等にて学ぶ機会を持っている。管理者や一部職員は理解を深めているが、今後職員全員の理解を育み、家族や地域の方々にも情報提供できるよう学習を重ねていきたいと考えている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	毎月、担当者の手書きによる報告を送付している。家族の来訪時には日々の暮らし振りや状況を写真等と共に報告し、また状況の変化があった際にはその都度報告している。金銭管理については、現状行っていない。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	苦情箱を設置している。日頃から家族が意見を言いやすいよう関係づくりを大切にしており、直接言ってもらうことも多い。意見や苦情については真摯に受け止め、入居者の生活の向上となるように対応している。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	日頃からホーム全体での馴染みの関係づくりに努めているが、異動は最小限とし、入居者へのダメージとならないよう配慮している。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用にあたっては特に制限は設けていない。理念にも表現されている「心」のある人を望んでいる。働きやすい職場環境づくりに取り組んでおり、職員の個性を大切に、また日々の支援に活かされるよう心がけている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム「仲間館・絆」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	<p>接遇委員会・向上推進委員会が設けられており、会議の中で入居者の方々の人権を尊重したケアの共有を図っている。また高齢者虐待防止に関しても外部研修に参加し、内部研修にて共有を図っている。</p>		
		<p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。</p>			
13	21	職員を育てる取り組み	<p>外部研修への積極的な参加を促し、費用等についても支援している。今後は内外の研修計画を作成し、経験や能力に応じた研修参加を効率的に行なえるよう、職員の積極的な参加に期待したい。</p>		
		<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>			
14	22	同業者との交流を通じた向上	<p>事業者協議会部会等に積極的に参加している。近隣地域の事業者への見学等に出向いているが、今後はネットワーク作りや相互訪問等に取り組み、サービスの向上に活かしていきたいと考えている。実践的な取り組みに期待したい。</p>		
		<p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>			
<p>2. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>					
<p>2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>					
15	28	馴染みながらのサービス利用	<p>入居前に本人・家族との交流の機会を重ね、要望や不安などを傾聴し、意見交換することで段階的なアセスメントを行っている。また体験利用を通じて環境に馴染めるよう配慮し、安心してサービスが開始できるよう柔軟に対応している。</p>		
		<p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>			
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	<p>地域の昔話や生活の智恵など、教えてもらうことも多い。職員が人生経験豊かな入居者の方々に相談することもあり、互いに支えあう関係が築かれている。</p>		
		<p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>			

グループホーム「仲間館・絆」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	日々の関わりの中で、会話だけでなく表情や動作などから、入居者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。家族との話し合いの中でも情報収集に努め、より良い支援となるよう取り組んでいる。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人・家族の意見を大切にし、担当者会議にて主治医等の意見を参考にしながら介護計画を作成している。		本人の思いや、職員の気づき等を計画に反映し、個別・具体的な本人本位の介護計画作成に期待したい。
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	3ヶ月毎のモニタリングを行い、見直しにつなげている。また状態変化が生じた際には、適宜モニタリング・計画修正を行い、現状に即した計画を作成している。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	地域の高齢者へ水曜日として週1回、ホームでの機能訓練やゲームなどにて楽しんでもらっている。入居者の希望にあわせた個別の外出にも柔軟に対応している。春には、多くの入居者が参加する二泊三日の旅行を実施しており、今年は宮崎・鹿児島方面に出かけている。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	本人・家族の意向を尊重したかかりつけ医を、入居時に決めている。ホームへの往診は定期的(週1回)に行なわれ、看護師との連携も充実している。歯科・眼科の往診もあり、適切な医療が継続して受けられるよう支援している。		
		本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム「仲間館・絆」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	ホームとして「その人らしく・最期まで支援する」ことを入居時に、本人・家族へ「看取りの指針」として説明し同意を得ている。看取りの経験もあり、今後は更に関係者との連携体制の充実に努めていきたいと考えている。状況の変化があった場合には、家族との話し合いを重ね、家族・職員一体となって支援している。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	入居者一人ひとりの誇りや人格を傷つけないよう、声かけや対応に常に注意を払っている。個人情報についても法令遵守に努めている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	ホームとして1日の基本的な流れはあるが、担当者が毎日状況を確認し、無理強いすることなく、入居者の意向を大切に支援に努めている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	調理の下ごしらえや味付け、盛り付けや後片付け等に、一人ひとりの能力を活かして職員とともに行っている。ホームの畑でできた野菜や、地域の方々からの届けられた野菜が食卓を飾ることも多く、入居者と職員が食卓を囲み同じ食事を摂っている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	1階と2階で交互に入浴日を決めて準備を行なっている。週3回の基本的な予定はあるが、希望や状態により柔軟に対応している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム「仲間館・絆」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	入居者の職歴や得意分野を活かした役割作り努めている。訪問当日は昼食準備として、大根おろしを一生懸命につくっている姿が印象的であった。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	天気の良い日は散歩や買い物に職員と共に出かけている。個別の買い物や外食にも柔軟に対応している。ディスカウントショップでの買出しの際には、入居者と共により協力してもらい大変助かっている。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	日中は鍵をかけないケアを実践している。外出傾向を把握し、職員の見守りにより自由な暮らしを支援している。地域住民の協力もあり、声かけや連絡してくれる関係がある。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	定期的な防災訓練や避難訓練を消防署の協力のもと、計画的に実施している。また消火器の点検や非難経路の確認も年1回実施している。消防団の施設が隣接し、職員の中にも団員がおり心強い。地域への協力も働きかけている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	食事の摂取量については毎回チェックし記録している。水分摂取量については、食事以外にも定期的に摂取しており、確認は行なわれているが正確な記録が無いため、今後改善していく考えである。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム「仲間館・絆」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	玄関ホールやラウンジには、アンティークな時計や家具、ポスターなどがあり、懐かしさと共に落ち着いた雰囲気醸し出している。リビングには季節に応じた飾り付けがなされ、ソファの配置等によりくつろげる場所が確保されている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	フローリングの床に畳や絨毯が敷かれている居室もあり、それぞれが過ごしやすい工夫がされている。自宅から使い慣れた筆筒や馴染みの物が持ち込まれており、生活感のある個性的な居室となっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			